

チャレンジプログラム

感想文

2024/03/27 ~ 2024/03/31

## H.K (高校一年生)

一日目は飛行機に乗り、初めて一人で香港に来た。CAさんが英語で話すことは別に良くて、不安はあったけど、外国は初めてじゃないから、冷静でいられた。この日、最も不安だったのは他の人と仲良くなれるかどうかだった。独学で学んだことをもとに仲良くはなれた気がした。□□□とは距離を感じた。

二日目。今日はグループが決められた。〇〇と△△がメンバーで名を「ポテチ」と言う。最初は二人ともあんまり活発に気軽に話してはくれなかったが、午後は仲良くなれた気がした。この日の最初は宇宙開発の社長の話や「楽なことでは成長できない」という話を聞いた。で、五人にアンケートをとることになり、どんどん話しかけた。断られるにつれ、日焼け止めと共にやる気も落ちてきたが、なんとかやり遂げた。次は駅に行ったのだけど、これはすぐにクリアできた。「やったー」とだけ思った。次がこの日の一番のラッキーだった。△△が話しかけた人が重い荷物を持ったまま、大家楽まで案内してくれた。そんな優しい人を日本では見たことがなかった。今度、日本に帰ったら、人に聞いてみようと思う。それでどんな反応をしてくれるかが楽しみだ。次は道を聞くだけなのに時間がかかった。断られる怖さを知ったからだと思う。なかなか話しかけられないでいると、またもやかずきが聞いた。そこから、トントンと行けるようになって、最終的につけた。外国人と写真を撮るのは〇〇が見つけてくれた。とても優しい人で写真を撮ってくれた。この日、僕は何もできなかったから、明日、明後日はやってやろうと思った。

その夜、AさんやBさんの聞き、そういうレベルになるとチャレンジをチャレンジと思っていないことがわかった。僕も迷わず、えげつない方を選んで安定から不安にいきたいと思った。そして運動すると肌も安定するとわかった。

その夜にみんなで集まって遊んだ。CさんやDさんもきた。楽しかったからまた遊びたいと思った。

三日目は時間がないようなので三～四日目とする。三日目は〇〇〇がすごかった。輝いて見えた。こんな優しく、おもしろい人がいるのかと感動すらした。こんな人になりたいと心から感じた。夜遊んだ。

四日目は割とスムーズで、行けるようになった。これからもっと人に聞くことが大切なんだと知った。大切なことは人に聞き、チームで共有することだと思った。

## R.K(高校一年生)

プログラムに参加して学校のなかでの勉強とは違う新鮮な学びを得ることができた。

一つは「聞く」ことの大切さで、この四日間、とにかくたくさんの人に道を尋ねた。学校の授業などでの質問がとても苦手な私が「知らない」という恥ずかしさをいとわず積極的に声をかけることができたのは大きな成果だったと思う。「無知の知」という言葉があるけれど、自分の足りない部分や未熟な部分を明らかにすることが大事だった。

二つ目に学んだのは「感謝の心」だ。この四日間は本当に人のお世話になりっぱなしで、道を教えてくれる人がいなかったら私たちは昼食を食べることもできなかった。加えてチームのメンバーの助けもあって様々なチャレンジが成功した。これまで面と向かって率直に感謝を伝えるのは何となく気恥ずかしいと思っていたけれど、口にしなければ相手にその想いは伝わらない。コミュニケーションをとることで人間関係がより広がっていく。

三つ目に勉強することの意義を明確にすることの必要性を知った。ただ漠然と今やらなければならぬ課題をこなしていくだけでは駄目で、その先にどんな将来を見出すかが重要なのだ。たとえ、今はまだ将来がぼんやりしていても、積極的な姿勢で学び、問うことで世界を広げ可能性も無限大になると思った。

この四日間、何もかも新しいことばかりで戸惑うこともくじけそうになることもあった。その度に助けてくれたのはチームのメンバーやAさんで、改めて人は一人では生きていけないと痛感した。技術が発達して何もかも自分でできる、と錯覚することがあるが、その後ろには膨大な人々のたゆまぬ努力がある。現代生活ではなかなか気付けないが、当たり前だと思っていたことは実は全くそうではないのだ。小さなことにも感謝して、人との繋がりを大切にできる人になりたい。

## K.M(高校一年生)

初日は、日本を出る時、荷物検査で引っ掛かって不安だったり、香港についた際での入国手続きが紛らわしかったりと、海外でのギャップに驚いたりしました。だけど兄弟たちと知恵を分け合いながら、Bゲートまで着くことができました。

ですが、二日目の海外インタビューで、中々に質問させてくれなく、不安が募り始めたのを鮮明に覚えています。声を上手くかけられずに三日目を迎えてしまったのですが、「このままじゃいけない」という、焦燥感と悔しさが僕を後押ししてくれて、再びインタビューで三十七人に話しかけることができました。しかしながら、相手の言葉を聞き取れずに、もう一度聞いてしまったり、ペアの人に任せきりにしてしまったのは、このプログラムでの反省だと強く感じました。

次に日本と香港を比べてみて思ったことは、信号が赤でも車通りが少なかったら、通行人が信号を無視して歩いていたことです。日本では常識的にあり得ないことなので驚きました。

最後に、今の作文を書いている四日目に二日目や三日目に学んだ、蓋を外す方法や、チャレンジ、主体性、感謝の心を更に深く、詳らかに説明してくれて、行動のみならず、頭にも刺激をインプットできてよかったです。

この香港の貴い五日間を無駄にせず、何でも挑戦して、大人が憧れる、カッコいい理想の大人になれるように日々精進していきたいと思います。

## M.N(高校一年生)

今回のプロジェクトに参加して、人として生きていくうえで、大切なことを本当に多く学ぶことができたと思います。

三日間を通じて行ったチームでのミッションでは、チャレンジ、主体性、感謝の心の三つを意識しながら取り組むことができたと思います。私のチーム牧志では、一番はじめのミッションの五人にインタビューするのに一番時間がかかってしまったり、オフィスの集合に三分遅れてしまったりと、他のチームよりもかなり遅れをとってしまいましたが、チーム内でコミュニケーションを多くとるようにしたり、それぞれが主体性をもって取り組むようにするなど、チームで工夫して過去の失敗を成功に変えられるように努力をすることができたと思います。その結果、二日目のインタビューでは計三百四十六人に声をかけることができ、道を聞く際にも一日目と比べてチーム全体でかなり積極的に取り組むことができたし、集合時間の二分前にチームが集まることができたなど、この短期間でかなり成長することができたのではないかと思います。

また植松さんや A さん、B さん、そして中村さんのお話を聞いて、このプログラムに参加する前と、意識や考え方に大きな変化が生まれたと思います。

今回このプログラムに出会うことができ、参加することができて、改めて環境や親に感謝の気持ちを持てたし、参加していなかったら、人として何か足りない大人になってしまっている気がします。失敗をたくさんして、かっこよく素敵な大人になるよう努力していきたいと思います。今までで一番成長できた三日間になったと心から思いました。

貴重な三日間を本当にありがとうございました。

## S.H(中学二年生)

僕は自分で言うのもあれだけど、このプログラムの目的の「短期間で飛躍的に成長する」ことができたと思います。一番実感しているのは、「チャレンジ精神」です。このプログラムに参加する前は、苦手なことや、やったことのないことはチャレンジもせず諦めてしまったり、一回やってもだめだったら終わりということが多かったです。プログラムの内容に、街中の外国人にインタビュー、写真を撮る、道を尋ねるというのがありました。英語はもつてのほか、知らない人に声をかけるなんて絶対に無理だと思い込んでいました。(否定的錯覚)

一日目には、おどおどして勇気も出ず、がんばって、がんばって二十人程度でした。そんな僕を救ってくれた存在がいます。それは、仲間の〇〇さんや△△君、そしてAさんの存在です。みんなの背中や励ましの言葉やサポートにとっても勇気づけられました。そしてなんと二日目には二百五十九人の人に声をかけることができました。思いは招くは本当でした!!そしてこの時、改めて“仲間”の大切さと有り難さに気づきました。おそらくインタビューに一人で行ってこいと言われても、絶対にできなかつたと思います。僕は生まれ変わりました。『チャレンジ』ができる自信を持った自分になりました。

互いに智慧と勇気を分け合うことで自分の想像以上の力（本来自分自身が持っていた力）を発掘できると学びました。だからといって過信は失敗に繋がります。自信と謙虚を両立させて行動していきます。

そして『高い使命感』と『高い責任感』そして『感謝の心』を胸に誰かを幸せにし、自分も幸せになりたいです。

本当に有難うございました!!

※僕たちのグループはダジャレをきっかけにめっちゃ仲良くなりました。

## K.M(中学二年生)

チャレンジプログラムを通して学んだ特に欠かせない要素、幸せになるための秘訣であった三つの言葉を軸にして、これからの人生を大切にしていこうと思いました。

そしてプログラム中、外国人にインタビューする時一日目では、不安と緊張でいっぱいになり、声をかけられず、なんとか親切な人がいたから、あまり多くの人に声をかけられずとも、五人にアンケートを書いてもらうことができたました。そしてそこはまさに不快領域でした。

二日目の外国人インタビューでは最初こそチャレンジする回数は少なかったものの、アンケートに答えてもらったり成功体験を通じて自信となりました。そして十人の外国人に答えてもらえるという自分では全く予想しなかったことができました。この経験で不快領域が自分を成長させるのだと実感として学ぶことができました。その上で僕は本当に不快領域が自分を成長させてくれるものかという疑念を晴らすことができ、その疑念を晴らすにあたって、それ以外にも何事においても、まずチャレンジあるのみだと思いました。そして僕は不快領域が自分自身を成長させることを痛感し、これから高校を卒業して、大学に進学する時には、快適領域である家族のもとを離れて、市外の大学に行き、自分自身のさらなる成長をもたらそうと思いました。もちろん大学に進学させてくれる家族に感謝の心を持って、自分を成長させていきたいと思います。

## N.M(中学二年生)

今回のチャレンジプログラムを通して、たくさんの経験をして、色んなことを学ぶことができました。最初はとても不安で、言語も通じないなかみんなと合流することができて、達成感と同時に嬉しかったです。

二日目からすぐ外国人へのインタビューがあり、とても緊張しました。誰に声をかけたらいいのか、どのように話しかければいいのか、何もわからず戸惑っていました。だけど他のみんなが頑張っている姿を見て、自分と同じ不安な状況のはずなのにすごいなと思いました。その姿に勇気をもらい、話しかけにいきました。

三日目も、四日目もインタビューや道を尋ねるなど、コミュニケーションをとることが多かったです。そんな言語も伝わらない状況で、どのようにすれば伝わりやすいかなど色々頭を使って考えました。断られることもたくさんあったけど、最終的には絶対、誰かが助けてくれると信じて頑張りました。

インタビューだけでなく、様々な人からの考えも聞きました。特に印象に残っているのは、快適領域からの脱出の話で、難しい話だったけど、とても理解することができました。いつもと同じ場所から抜け出すことで、いつもは分からなかったことや学び、または不快さなど人間にとって成長する大切なことだとしました。失敗してもネガティブに捉えるのではなく、なぜ失敗してしまったのか、どのようにしたら成功するのかなど、新たな学びとして受け取っていかうと思えました。

今回のチャレンジプログラムを通して、色んなことにチャレンジしていきたいと強く感じました。部活でも勉強でも生活習慣のことでも、何でもいいから新しいことにチャレンジしたいです。

今回経験した色んな学びを忘れずに沖縄に帰って、成長できるようにがんばります。

本当にいい経験になったと思います。四泊五日ありがとうございました。



## K.B(高校二年生)

自分は元々思い込みをよくしてしまう事があり、チャレンジする前から自分が成長してもどうせ失敗すると今まで考え今まであまりチャレンジして来ませんでした。しかし今回のプログラムでチャレンジをしてみる事の大切さを理解しました。二日目のインタビューも五人とか無理と思いました。しかし実際にやってみるとスタートダッシュが上手くいきそこから自信が出てきて五人にインタビューすることができました。そこから自分から嫌だとか自分には無理だと思ったらそこは不快領域だから逆に自分を成長させるチャンスだ。失敗しても学びにし、もし成功できたとしても傲慢にならずその成功よりももっと良い成功にする事ができなかったのかを考えられるようになろうと思いました。

自分はよく周りに流されて行動をよくしてしまうのですが今回のプログラムで話を聞いた人たちは日本の大企業を辞めることを止められても自分に芯の通った考えをもっており自分も周りに流されず、ネガティブなことを言われてもしっかり自分の考えを突き通せるようにしたいです。しかし頑固にはならず周りの良いアドバイスは吸収しようと思います。

自分は考えてから行動してしまうのですが、その時は孔子の教えを思い出し、まず行動からしてみようと思います。

## H.A(高校一年生)

四泊五日のプログラムを通して、様々な学びや気づきがあったと思う。このプログラムでは、海外の生活や文化、人を身をもって体験できたと思う。プログラム中にどんな体験や学びがあったのだろう。

一つ目は成長についてである。様々な体験や授業で自分の成長を身を感じた。成長に欠かせないものや、どうすれば成長できるのかの手段を知った。自分にとって辛いや恥ずかしいなど不快に思う方へと進むと成長できると学んだが、今回のチャレンジではその不快に思う方、不快領域に入るミッションが用意されていた。外国人アンケートでは話しかけにくい恐怖や断られるかもしれないという不安の中、ミッションをクリアする事で大きな喜びと成長があったと感じられた。

二つ目は、仲間の存在の大切さである。今回のプログラムでは、チームに分かれ、それぞれのミッションを行っていった。その中で苦労したことは多々あった。たとえば、人に道を聞くまでに多くの葛藤があり、目的地に着くのに大変苦労した。しかしそんな中で、仲間がいたおかげで、その苦労も乗り越える事ができた。私はチームの中で最年長で、自分が前に出るべきだと感じさせられた。さらには、下の子が勇気を出して、チャレンジをしに行くのを見て、自分もやらないといけないという焦りと同時に勇気ももらった。周りが頑張っているのを見ると、自分も頑張れるようになって気づいた。そこで仲間の大切さに気づいた。

三つ目は錯覚である。私は、外国人インタビューで、警備員に怒られてしまい、多くの不安が飛び交った。そこで私は、否定的錯覚をしてしまったのだと思う。一度、不安になってしまうと「できない」という言葉で行動を起こせなくなってしまった。しかし、その後、たくさんの人に道を聞き、やっとの思いで、目的地に着いた事で否定的錯覚から肯定的錯覚に変わった。そのおかげで四日目のミッションは満足できる結果になったと思う。そこで錯覚は成長に重要であると知った。

今回のプログラムで私はかなり成長し、たくさんの学びを得た。この香港での体験を忘れることのないようにしたい。そして、目標に向かって努力していきたい。

## T.M(中学一年生)

僕は今回のチャレンジプログラムに参加して良かったと思っています。

香港に行く前は、行きたくないなあ、嫌だなあ、と思っていたけど、チャレンジプログラムに参加して前より、自信と勇気がつきました。

一日目は兄弟以外知らない人で不安だったけど、ほとんど全員と話せるようになりました。

二日目の外国人インタビューでは、最初、失敗が怖くて話しかけることができなかったけど、家族で来ていた外国人と少し仲良くなって質問に答えてもらって自信がつきました。二人目に答えてもらうのに時間がかかったけど、残り十分と聞いて急いで声をかけて五人達成できました。

三日目は自信があったんだけど断られるのが怖くてあんまり外国人に話しかけられなかった。午後の観光では一粒で牛丼を一つ食べれるくらいの値段がするチョコを誕生日プレゼントでもらって気分が上がりました。

四日目は郵便局の道を聞く時には聞けなかったけど、郵便局が休みだったから切手を買う場所を警備員に声をかけられて FIVE GUYS の行く道も写真を見ながらたどり着く事ができました。

チャレンジプログラムに行く前は自信がなかったけど行った後は自信と勇気がめっちゃあります。日本に帰っても自主的に声をかけていきたいです。

## H.K(中学三年生)

僕は三月二十七日初めて一人で香港に行きました。前日からとても不安で寝れませんでした。そして当日になり一人で飛行機に乗り何とか香港に着きました。そしてみんなと合流していく内に緊張はほぐれました。そこからホテルに向かうバスの窓ガラスから街を見た時は、とても感動しました。日本と違い全体的にビルの高さが高くおどろきの連続でした。

次にチャレンジプログラムのミッションです。ミッションでは、インタビューやお店を探しました。インタビューは、最初は、中々うまくいかなかったけれど成功した時はその分だけ嬉しかったです。英語がわからないのでジェスチャーなどで聞きました。成功すると自信がつき次に行こうという気持ちになれました。お店を探す時は道を聞いたりしなければいけませんでした。でも最初は怖くて聞けませんでした。ですが中村さんの授業で聞いた「チャレンジ」を思い出し、チャレンジしなきゃと思いチャレンジしました。聞いてみると思ったより優しくて成功した時には、感動と自信がつきました。

香港でついた自信は、日本や普段の生活で香港にいる時以上に使えると思います。日本では言葉が通じるから何とかなるという気持ちです。今は上手くいかない事が多いですが、いつかは海外でも頑張れるようになりたいです。僕は本当にチャレンジプログラムに参加して良かったと思っていました。学んだことを将来につなげたいです。

## N.Y(中学一年生)

人生で初めて一人で飛行機に乗って海外に行きました。チャレンジプログラムでたくさんの方のことを学びました。

一つ目は、人間が成長するために欠かせないものを学びました。人間が成長するには、「チャレンジ」をすること、「主体性」を持つこと、そして、「感謝の心」をいつでも忘れない事です。「チャレンジ」をする時失敗をしてしまった時もそこで諦めずに、失敗を受け止めて、その失敗体験を学びに変えて成功を目指すといいと知りました。

今回のチャレンジプログラムでの自分の英語のボキャブラリーが全然なくて、話かけたりするのがほとんどできなかった。でもプログラム中、毎回断られても「Thank you!」と言うようにして、感謝の気持ちをたくさん伝える事がたくさんできました。

学んだこと二つ目は、「目的と目標の違い」を学びました。目的は「必ず達成すべき最終の到着点」と知り、目標は「目的達成のための過程であり手段」という違いがわかりました。考え方は、目的は「絶対にあきらめてはいけない」もので、目標は「時には修正したり、方向転換しても良い」ものということを知りました。

三つ目は、「ありがとう」の反対の意味を学びました。「ありがとう」とは、「有難」と書き、めったにないや、めずらしいなどの意味があり、なので「ありがとう」の反対は「当たり前」で、当たり前を否定できない限り感謝の心は生じないと知りました。

私が「カッコいい大人」や「素敵な大人」になるためにこれから、「チャレンジ精神」と「主体的に動くこと」、「感謝の気持ちをいつも忘れないこと」を心がけて、生活していきます。

## K.U(中学二年生)

今回のプログラムで成長・学んだことは、コミュニケーション力と感謝の心を学ぶ事ができました。

一番大きく成長したことはコミュニケーション力です。二日目のミッションで外国人にアンケート（五人）というのを聞いてとても頭が混乱しました。一人で海外に行くのが初めてなのにそれに加えて外国人アンケートなどできないと思いました。やってみるとやはり時間がかかりました。断られるのを恐れてしまいあまり声をかける事ができませんでした。しかし三日目のミッションで、もう一回外国人アンケートがあると聞きました。しかもそれは、人数の上限がありませんでした。そのことで断られてもいいからどんどん人に話しかけようと思いました。それに断られるのを普通だと思いインタビューすることにしました。やってみると計九十一人の方に話しかけ十一人の方に答えてもらう事ができました。確実に成長することができました。これから学んだことは、考え方を変えると色々なことができるということ学びました。

二つ目の感謝の心は、自分が相手に感謝しなければ人からも感謝されないということです。一日目のインタビューでは断られた人に感謝をあまり伝えられませんでした。だからお互い良い気持ちではありませんでした。しかし仲間との話し合いの時に感謝をしっかり言おうと決めました。三日目のインタビューの時に断られても感謝をしました。そしたら相手も自分も笑顔になりました。だから、笑顔と感謝の気持ちは人間関係においてとても大切だと思いました。

その他にも学びが数えきれないほどありました。なれない相手・環境で様々なことにチャレンジするとより一層成長できると学びました。この学びを活かして今後の生活をしっかりとしていきたいです。